

京田辺市産業振興ビジョン検討ワークシート（農業分野）

1. 現状と課題

分類	現状と課題
農業者	<p>【後継者不足・人材不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○後継者不足 ○高齢化 ○集団化(法人化)の中心となる人物が少ない。 ○販売先を確保できないことが、若い人の就農を阻害している面がある（現に、若手農業者も専業農家として育っているところもある）。 ○高付加価値作物を作っている人が少ない。 ○全国レベルで見れば、高付加価値商品（エビイモ・玉露）を作っている地域といえる（が、活かしきれていない）。 <p>【効率化・負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○機械の共同利用は使用時期が重なる問題がある。 ○重労働の解消として機械化を進めることは考えられるが、経営規模が小さいため、費用対便益からみて現状では困難。 ○機械の共同利用は故障が起こりやすいので、同一人物が運転する等のシステムを構築する必要がある。 ○同一人物による運転システムは難しい面がある。（担い手が少ない。同じ担い手に集中する。） <p>【集約化・経営力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農家の経営感覚が不足している。（補助金依存、材料費や人件費等原価に対する認識） ○やる気のある人への集約が難しい。
農産物	<p>【地産地消・食育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○京田辺市産農産物を、どこに行けば買えるのか知らない市民が多い。（米や野菜など全ての面） ○消費方法（郷土料理など）のPRができていない。 ○新興住宅地の住民は、京田辺市の農業に対する認知度が低く、周知に向けた働きかけが必要。 ○市民農園は、利用率の高いところと低いところがある。 ○子どもがいる世帯で農業体験のニーズがある。 ○食育は重要。 <p>【流通・販売】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○野菜のカットや、パンなどに二次加工できるような加工場がない（農産物の高付加価値化につながりにくい）。 ○京田辺にお金が落ちる仕組みになっていない。 <p>【直売所の確保・充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○直売所の独自性・魅力が薄い。 ○直売所が幹線道路沿いに無い。また、拡張することが難しい。 ○直売所でワンストップの買物が出来ない。（肉や魚が無い。） ○直売所の規模を大きくするには、京田辺の農産物だけではかなり難しい。 ○直売所には京田辺で生産されたものが買えるのだという喜びを消費者が持てる販売所にしなければならない。 <p>【ブランド化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○京田辺でしか食べられないものが無い。 ○特産品のPRが弱い。 ○作付、耕作方法のルール化など、農作物ブランドの強化に取り組めていない。 ○京都府の推進策と共に農業が展開してきた土地柄がある。ブランド京野菜の重要産地。 ○田辺ナスやエビイモなど地元特産品のPR不足と販売している店が少ない。 ○「京やましろ新鮮野菜」を約6割が知らない。《市民アンケート》 ○関西近郊では「京野菜」のブランドは活かしきれない。 <p>【コスト改善・効率化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大規模化できるまちではないので、少量多品種でグループ化するのが得策。 ○コメは売れているが投資に見合わない。 ○高コストの改善が課題。経営規模に対して機械導入費用が高い。 ○中山間地などは集団化しても利益があがるか分からない。
農地・環境	<p>【集約・集積】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農地集積が困難。（土地の価格、土質、農機具庫との距離、農地解放時の記憶等） ○一大産地になるには面積が足りない。 ○ほ場整備率が低い。○耕作放棄地が点在する状況で、それを集約する仕組みを考えていく必要がある。 <p>【受入環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者は信用力が低く、土地が借りにくい。○新規就農者に対しての受け入れ体制が必要。 ○貸農園の推進および農業技術を学ぶ機会を設ける必要がある。 <p>【農地の流動化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○土地が借り難いのであれば貸してもらいやすいシステムを作る。○農地中間管理機構の制度PR ○土地を貸すことに対して抵抗感があり、このため放棄地同然となり、農地が荒れるという現状が確認される。

めざす将来像のイメージは？

2. 農業振興の理想的な将来像（ビジョン）

■ ビジョンにつながるキーワード

- まずは農業はもうからないと思う気持ちからの脱却 ○農家と消費者を直接つなぐ農業振興 ○自給自足、新鮮、身土不二
- 生業としての農業を維持するため、生産効率を高めるとともに、農産物をコストに見合った適正な価格で販売する。
 - ・都市近郊という立地を活かし、市民をはじめとする近郊の住民に安心安全で新鮮な野菜を提供する。
 - ・「京野菜」「京都産」というブランド力を活かせる消費地での新規の顧客（販路）を開拓する。
 - ・「人」「物」「土地」の全てにおいてグループ化・集約化を促し、コストを下げる。
 - ・他分野、他市町村との連携をはかり農産物の消費を促進する。
- 自家消費用の米や野菜の生産活動を維持し、耕作放棄地の発生を防止するとともに農地の多面的機能を保全する。

目指す将来像の実現に向けて取り組むべき方策は？

3. 農業分野の具体的な取組方策

分類	具体的な取組方策	
	取組方策	具体的な取組内容
農業者	新規就農者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者を地域で受け入れる仕組みづくり (非農家就農バックアップ、農協や山城北農業改良普及センターによるアグリカルチャースクールの開催支援等) □青年就農給付金事業 □ナス・エビイモ農家育成事業
	農地の流動化	<ul style="list-style-type: none"> □農地中間管理機構（農地集積バンク）、利用権設定等促進事業
	共同化・法人化	<ul style="list-style-type: none"> ○集団化（法人化）を担う人材の育成支援 ○機械の共同利用に向けた仕組みづくり（使用時期、使用方法等） ○少量多品種生産を可能にするグループ化の促進 □農業共同利用施設・機械等整備事業補助金 □京都田辺茄子共同選果場建設事業補助金
農産物	市民理解	<ul style="list-style-type: none"> ○農業体験農園、オーナー制農園等の設置の可能性の検討
	地産地消	<ul style="list-style-type: none"> ○地元飲食店等との連携による京田辺市産農産物を食べる・買えるお店マップ作成（京田辺市産農産物の消費促進） □市民対象の京田辺市産農産物を使った料理教室、お茶の淹れ方教室の充実 □転入者向け茶器及び玉露セットプレゼント事業 □京田辺市茶まつりの開催 □茶業振興看板設置
	食育	<ul style="list-style-type: none"> □まるごと京都の日事業（学校給食への京都産食材使用） □小学校・幼稚園等での農業体験（収穫等）
	販路確保・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○農業体験事業、直売所間交流等による商品数アップなど農産物直売所の魅力向上の取組支援（農産物直売所の販売力強化） ○「京野菜」「京都産」のブランドを生かせる消費地での新たなPRへの支援 □農産物直売所の移動販売事業の支援（集客施設（スーパー・駅）等での販売による消費促進）
	ブランド化	<ul style="list-style-type: none"> ○京田辺市産農産物などの京田辺ブランド一休品認定促進 ○茶の品質向上のための茶工場設置事業の支援 ○煎茶道を生かした玉露の淹れ方の確立と普及（新しい淹れ方体験、おいしい飲み方の提案） □京田辺市産農産物（例：茶スイーツ、ナスやエビイモ等）を使ったイベント開催・情報発信 □京田辺玉露消費拡大PR事業（国内・海外販路開拓） □全国等茶品評会出品奨励事業 □ナス・エビイモ農家育成事業
	他業種連携	<ul style="list-style-type: none"> ○地元飲食店等との連携による京田辺市産農産物を食べる・買えるお店マップ作成（京田辺市産農産物の消費促進） ○農業者と商業者のマッチングによる京田辺市産農産物等を活用した商品開発の促進 ○農産物直売所や農産物加工場等を生かした農業体験型観光プランの開発（農産物の販売促進） ○宿泊施設立地に向けた検討（地元産食材の消費拡大） □農産物直売所の移動販売事業の支援（集客施設（スーパー・駅）等での販売による消費促進） □専門家活用による農産物の高付加価値化（6次産業化）の推進
農地・環境	多面的機能の保全	<ul style="list-style-type: none"> □中山間地域等直接支払交付金 □多面的機能支払交付金
	農業・農村の維持	<ul style="list-style-type: none"> ○農業者資質向上に向けた研修会の実施 ○高齢の農業者への支援（農作業ボランティア等の募集） □農地中間管理機構（農地集積バンク）、利用権設定等促進事業（再掲） □低労力で栽培できる作物の栽培を奨励（レモンプロジェクト、ジャバラプロジェクト） □耕作放棄地解消事業補助金 □普賢寺地域活性化事業 □市単独土地改良事業 □市単独農業基盤整備事業 □有害鳥獣駆除事業・被害軽減対策事業